11 月 16 日（日）10:00～11:30　赤羽文化センター第一視聴覚室において、11 月例会・手話学習会を開催しました。講師は手話通訳士の五十嵐郁子氏で、会員 28 名、見学者２名、合わせて３０名の方にご参加いただきました。

★今回の学習内容★

例文１

昨日の 11 月 15 日は、第 25 回デフリンピックの開会式でした。26 日まで東京都、静岡県、福島県で２１競技が行われます。ボランティア 3000 人募集に対して、１万９千人の応募があり、採用した 3500 人のうち半数は手話が使えます。

例文２

国際ろう者スポーツ委員会が主催し、80 か国・地域の選手約 3000 人が参加します。前回の第 24 回ブラジルのカシアス・ド・スル大会で 30 個のメダルを獲得した日本は、「メダル３１個以上」の目標を掲げています。

例文３

観戦は無料ですからチケット収入はありません。運営は全日本ろうあ連盟と東京都、都スポーツ文化事業団が担い、約 130 億円の経費は都が 100 億円、国が 20 億円を負担し、残り 10 億円は企業などからの協賛や寄付で賄います。

コミ男とモア子のしゅわ談義

コミ男：東京デフリンピックは大盛況だったね。目標の総動員数 10 万人を大幅にこえて、会場での観戦客は約 28 万人、スクエアへの来場客は約 5 万人で 30 万人超えたらしい。

モア子：バレーボールを観に行ったら、長蛇の列ができていて入場規制がかかっていました。トルコとの決勝の日は 2 時間前に行き、それでも並んで、なんとか席がとれました。

コミ男：僕も行きました。会場では手話での案内や字幕表示が出ていて、情報保障がきちんとなされていたことに感動しました。

モア子：そうですね。でも本来は普段から情報保障されるべきもの。デフリンピックの場だけで終わらないでほしいですね。